

# 概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 総則部会

テーマ 『楽しい学校づくりをめざした教育課程の工夫改善』

## 提案概要

### ○実践に向けての課題

本校では、急激に世代交代が行われ、若い教員が増えている。年齢層は50代と20代で大きなふた山ができる。若い世代の授業力を高めることは、必須の課題となっている。また、平成25年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問項目の結果により、生徒たちの学習意欲や自己肯定感が、全国平均と比較してやや弱い様子が把握できた。

「学校教育の根幹である充実した授業と体験活動を通じて、生徒に達成感を得させることが、生徒の自己肯定感を高め、楽しい学校づくりにつながられる」と考え、県の学びづくり研究委託事業を受け、研究を進めた。この研究を推進する時間を生み出すために、過密なスケジュールの緩和のための教育課程上の工夫が必要と考えた。

教職員の意見は賛否両論あったが、学びづくり研究に取り組むにあたり、時間的な苦しさが生まれるのは明らかだったことと、授業力の向上が何より必須の課題であったことから実施することになった。

### ○実践の概要

学びづくり研究では様々な体験活動を行い、意義深いものであった。以下は研究の時間を生み出す為の教育課程の工夫に関わる2つの実践である。

#### ①2期制での定期テストを年間3回の実施にした。

前期の中間テストの時期は、時間的にも内容的にも苦しい状況での実施となっている。そこで、前期中間テストをなくし、単元ごとの評価を適切に行うように評価を見直し、前期は期末テストのみとした。

→実施前にはテストがないと勉強に向かえないのではという懸念や、テストが1回少ないことが、評価に影響があるのかどうかという心配もあったが、実施してみて、3回のテストでやっていくことは十分可能であり、なくしたことによるメリットを、職員はかなり感じている。

#### ②通知表の簡素化を図った。

三者面談で担任から伝えるべき詳細は話をしているので、前期の通知表には観点別評価と評定のみを記載。各家庭に学校の様子を伝えるものとして、「もう一つの通知表」を作成し、活動について、個人内評価、友人からの相互評価を記載した。

→転記ミスの点検作業などの物理的な面を減少させ、通知表にかかる労力が半減したことは大きい。

### ○成果と課題

#### 〈成果〉

- i 時間を生み出すことができた。
- ii 過密スケジュールを少し緩和できた。
- iii 評価を見直す機会になった。
- iv 範囲の狭いテストへの取組で生徒に達成感を与えることができた。
- v 「もう一つの通知表」は生徒に自己肯定感を育ませる一助になったと思われる。
- vi 学習状況調査の意識調査結果に向上が見られたのは、若手教員の授業力向上によるところが大きい。

#### 〈課題〉

- I 「テストがなくなると勉強しなくなる」という不安感を解消できていない。
- II 前期の評定が1回のテストで決定してしまうという誤解を解き切れていない。
- III 小テスト、単元テストの公平性に対する不安感を解消できていない。
- IV よりよい評価になるよう研究を重ねる必要がある。

研究推進を時間的にバックアップするために行った教育課程の工夫であるから、それが直接生徒の行動や考え方に影響するわけではない。少しのゆとりの積み重ねによって生まれた時間が、間接的には授業が改善されることに生かされ、「授業が面白い、わかる」と感じられる生徒が増えたなら、喜ばしいことである。今後の生徒たちの様子を継続して見ていきたい。

## 質疑概要

- ・小テストの公平性や信憑性についてはどうか。 → 生徒同士は情報交換していない様子。
- ・小テストは何点満点か。また実力テストはどのようなものか。 → 教科によってまちまち。5分のテストもあれば1時間かけるテストもある。実力テストは評価には含めない。面談の資料の使用のためにこの時期に実施している。
- ・単元テストは1時間とってやっているのか。 → 実力テストは一日とって5時間でやっているが、単元テストは1時間とってやる人もいれば、40分、30分という教科もある。
- ・若手職員の授業力向上や生徒が理解できるようになってきている理由は何か。 → 授業力の向上については、授業づくりの研究のおかげもあると思う。時間が生まれ、授業の準備が平素よりあったと思う。また、若手職員が様々な授業を見ていることも一つである。
- ・実力テストは業者テストか。また、通知表の所見はないのか。 → テストについては業者。採点もやってもらっている。所見はない。委員会、係等、通知表にはないので、確認の必要もない。
- ・「もう一つの通知表」では、生徒の誤字脱字の指導の方が大変なのではないか。 → 教員側でもチェックしているが、そのまま渡している可能性もある。
- ・テストを減らしたので、実力テストを入れたのか。実力テストの結果について保護者からの声はないのか。また、面談に来ない生徒について、保護者が知る手立てはあるのか。 → 業者テストは以前から行っているが、時期はずらしたかもしれない。面談で都合がつかない生徒（保護者）については、夏休みに入って面談を入れている。
- ・小テストの時期に部活動をやりながらで、生徒の負担はないのか。 → テストが小さいので取り組みやすい。

## 研究協議概要

各学校で行っている、「楽しい学校」をつくるための教育課程に関わる部分の工夫について、8つのグループに分かれて協議し、発表した。

- ①期末テストを2回にする。行事の精選。職員会議を減らす。打ち合わせ時間の短縮。若手職員の研修の充実。
- ②評価を見直し、テストの回数を減らす。職員室のゆとり→授業の工夫→準備の充実→授業が分かる→生徒は楽しい。会議を減らす方法、時間の短縮、事前の検討、放課後の時間の確保が必要。
- ③発表を受けて〈通知表の簡略化〉について、どのような議論があったのか興味がある。時間を生み出す為に面談を夏休みに行く。行事については、2年生で職場体験を5日行い、宿泊訓練を1年生でやるなど工夫している。
- ④通知表の点検作業を少なくするには、項目は少ない方が楽だが、進路までのことを考えるとどうなのか。また、もう一つの通知表は案外手間がかかりそう。所見も保護者の思いを考えるとなくせない。テストを減らす取組では、小テストの公平性はクラスが多くなれば難しい。楽しい学校づくり→体験的なこと→授業時間の確保困難。
- ⑤テストの公平性。どんな目的でやっているのか。通知表の所見をなくすことで時間的余裕ができる。
- ⑥生徒向け指導計画「学びのプラン」が全教科3学年分できているので、毎年踏襲。
- ⑦単元テストの良さ、定期テストの良さ両方ある。所見については、書くことの意味も大きい。若手の育成。
- ⑧実施可能は教育課程の考察 → 入試後の日程の工夫。教育相談の持ち方の工夫。行事の持ち方、特に文化祭の持ち方の工夫。

## まとめ概要

- ・今回の発表の「テストの回数を減らす」「通知表の簡素化」については「楽しい学校」をめざした学校の様々な取組（ひまわり6000株など）の一つにすぎない。県の委託を受けた「学びづくり」が中心にあり、その研究の中での工夫である。校長がどういう学校をつくりたいのかが中心にあり、総則はそれをバックアップし、チャレンジすることが大事で、だめなら元に戻せばいい。先生方が無理をしたら良くない。色々ないいチャレンジをしてもらいたい。
- ・総則の解説P19（3）「生きる力をはぐくむ各学校の特色ある教育活動の展開」にある通り、各校の取組をすること。子どもの視点からは、地域や自分たちにあった学校づくり、職員の視点からは、やってみる価値があるものごとは何なのかを考えた自分たちの学校づくりがある。小中連携にも課題はたくさんある。私たちは、多忙感の中で「誰が主体となっているのか」を常に忘れてはいけない。